

(2) 連携事例分類一覧表
ヒアリング調査を基に、15事例を主催者、連携の形態、学校、連携の内容などの項目で分類した。

◇ 連携の形態：事業協力

番号	主催者 (主体)	連携の 形態	学 校	連携の内容	担 当 職 員		組 織	・ 連携の留意点 ○ 成果 ◇ 課題	
					公民館	学 校			
1	宇都宮市中央地区コミュニティセンター (中央地区ホビー実行委員会)	事業協力	宇都宮市立中央小学校	・学校施設・設備の開放 ・参加者の募集 ・申し込の取りまとめ ・学校職員の事業協力(管理職及び教諭2名の参加)	地域コーディネーター ユセニアン職員	副校長	中央地区ホビー実行委員会 ・地区委員 ・地区推進員 ・地区協議会 ・地区PTA等	・担当職員は事業の目的、協力事項などを具体的に示し、管理職に協力依頼をする。 ・担当職員は管理職と学校課題などを情報交換する場と時間を確保する。終了後も事業報告に出向き謝意を伝える。 ・担当職員は学校の教育課題を達成するために、子どもたちによる事前の計画会議を実施する。 ・担当職員は教員の専門性を地域に生かすため、管理職などに事業協力の呼びかけを行う。 ・連携事業は平成19年度65回実施し、夏休みは10の企画を実施した。 ○地域担当者が学校のPTAに新設された。 ○子どもたちが地域の方々と話ができて、活動中に直接質問もできるようになった。 ○また、まちで自治会役員に挨拶し「○○さん」と名前を呼ぶようになった。 ○講師と学校が教育課題を共有することが大切である。 ◇地域連携担当教員が各学校に複数いたり、担当教員の氏名が公開されたりすると、事業の企画・相談・協力がより円滑に進む。	
2	日光市足尾公民館	事業協力	日光市立足尾小学校 日光市立足尾幼稚園	・会場の提供 ・交流のための時間 ・交流の学習 ・事前の準備 ・実施の準備	主事	教頭 園長		・公民館と学校の役割分担は、相互の専門分野に配慮しながら行う。 ・担当職員は、事前にならぬや留意事項などについて文書や口頭で十分確認する。 ○本事業は、高齢者のもつ豊富な経験や知識が、次世代を担う子どもたちへと受け継ぐ良きものとなっている。 ○高齢者が、「しがが、高年齢者の経験から食の大切さを知り、給食を残さずに食べるようにしていただく」ように、地域の教育力の向上にもつながっている。 ○子どもたちが、高年齢者の経験を食の大切さを知り、給食を残さずに食べるようになっている。 ◇高齢者と子どもたちの人数のバランスを考えると、対象学年を広げる必要がある。 ◇活動内容がマンネリ化しないよう工夫をしていく必要がある。	
3	栃木市吹上地区公民館	事業協力	栃木市立吹上小学校 栃木市立千塚小学校	・アンケートに回答(教諭)に子どもたちからの質問の提案 ・習字の募集 ・参加者配布	主査(社会教育主事)	校長		・事業は子どもたちが学校の授業の延長線上と感じることがないよう配慮する。 ・事業実施後、子どもたちから学校行事に協力してくれる地域の方を紹介してほしいなどの連絡があり、本事業が学校と地域との連携を発展させる契機となった。 ◇今後は系統的な講座のプログラムを構築し、学校の授業や育成会活動などへの出前講座としても実施できるように体制をつくっていく。 ◇前講座は地域の子どもたちにとっても身近なことを身に付けさせ、どのように育ていったら良いかを共に考える、地域と学校が連携した組織をつくりたい。	
4	栃木市須塩原地区公民館	事業協力	栃木市立須塩原小学校 栃木市立那須中学校	・公民館祭の広報 ・展示作品提供	館長	教頭		・公民館と学校は、連携の経緯を大切にしながら互いの特性を生かす。 ・公民館と学校は、相互の役割分担を明確にし最後まで責任を持つ。 ○生徒が地域社会の一員であるという自覚をもった。 ○生徒が地域の人々との交流がもちろめつなげられている。 ○生徒が打ったそばを各家庭に持ち帰ることで、家庭教育の充実が図れた。 ○そばは打ちの技術を身につけた教員が、近隣の学校の依頼でそば打ちの技術を指導している。 ◇事業の実施にあたって、予算の確保や資金調達も課題である。 ◇事業の事業と日程が重なるため、職員が多忙である。	

◇ 連携の形態：事業協力

[illegible]

◇ 連携の形態：共有

番 号	主 催 者 (主 体)	連 携 の 形 態	学 校	連 携 の 内 容	担 当 職 員		組 織	・ 連 携 の 留 意 点 ○ 成 果 ◇ 課 題
					公 民 館	学 校 その他		
9	那須塩原市東野公民館 (運営委員会)	共催	那須塩原市立中学校 那須塩原市立小学校 那須塩原市立児童センター	事務局は中学校として「熊川源流強化」担任(運)兼ねる。PTAからも選出等。	係長	熊川源流強化担任職員	運営委員会、小中学校、PTA、市民区行政会	・学校と地域の連携に関する推進会議の設置が連携をつくっている。 ・各小中学校・公民館の担当者から、事業を円滑に推進するために運営委員会を開催している。 ○連携が、子どもたちの健全育成や安全安心なまちづくりにも生かされ、見守りボランティアなどの活動に発展した。 ○本事業で様々な情報共有され、公民館では教員が講師となった地域住民対象の初心者バスケットボール教室を開催した。 ◇公民館が、今後も地域の様々な団体を連携することで、子どもから大人までの交流がさらに深まることを期待される。 ◇本事業が地域の教育力を高め、教育を核としたまちづくりが展開できる素地となるよう、運営上の工夫が必要である。
10	足利市富田公民館 (学社連携協議会)	共催	足利市立富田小学校 足利市立富田中学校	・プログラムの検討 ・会場の提供 ・子どもの事前事後指導	主事	各行事担当職員 福祉担当職員 担任	学社連携協議会 ・小中老若、各種団体、各校の地区福祉会館	・地元の関係者が学社連携会議で一堂に会い、事業の目的や意義を確認しプログラムを作成している。 △子どもたちも、様々な年代の人々と昔の文化と現代の文化の違いなどについて語り合ったり、楽しさを共有したりできるので学校のなかだけではできない学びがある。 ○高齢者は講師としての文庫の利用や他の学級講座などへの参加者が増加した。 ○公民館が地域の文庫に協力するようになった。 ○多様な世代の人が自分たちの地域、まちづくりに関心を持ちたい。
11	岡山県岡山市久米町民協 (連絡協議会)	共催	岡山県立岡山高等学校	・プログラムの割振	主任	生徒課長 学年主任	連絡協議会、公民館、高校等	・事業の目的、連携事業のしくみなどを明確にしながら協議を重ねる。 ・公民館後援、高校生が活動を活性化させるために、場の開発や情報提供を行う。 ○高橋校長との地域生活者の役割や存在価値に気づき始めている。 ○高橋校長が、地域住民とのコミュニケーションの量が増えた。 ○本校生が高齢者と交流やふれあいの場が増えた。 ○本校生が卒業後の進路相談を受けることもあった。
12	茨城県水戸市中央公民館 (地域学校協議会)	共催	水戸市内立水戸小学校	・年間活動計画等の作成 ・生徒や教員の要望の取り入れ	社会教育部主事	教務主任	学動協議会、公民館、中学校、大学等	・公民館は、組織的に活動を展開することができる機動的な組織をつくる。 ・公民館(授業)は、実技科目目を中心に実施する。 ・学習内容(音楽)は、地域の美術展を取り入れて活用する。 ○公民館が、生徒の専門性など学校の資源を生かすことができた。 ○関係心が高まった。 ○本年度は、本校が生徒の指導に力を入れた。 ○本年度は、本校が地域の指導に力を入れた。 ○本年度は、本校が地域の指導に力を入れた。

◇ 連携の形態：その他

番号	主催者 (主体)	連携の 形態	学 校	連携の内容	担 当 職 員		組 織	・ 連携の留意点 ○ 成果 ◇ 課題	
					公民館	学 校			
13	さくら市市民館	その他	さくら市立各中学校	・小学校教員が講座（絵画）の講師を実施	主事	教頭 教員		・学校との連携を推進するために、市の生涯学習課に勤務する社会教育主事らと、必要に応じて連絡調整を図ってもらったり、助言をもらった。 ・公民館は、学校の施設や講座などに生かせる教員についての情報を収集する。それらの情報を得られる情報源をもつ。 ○公民館が、地元の方の指導者の情報を共有することによって、事業内容が豊かなものとなる。 ○小学校教員の専門性を事業内容に充実させた。 ○教員が自身の学習成果をコーディネートする場となった。 ◇各中学校に総合的なコーディネートを担う組織をつくり、公民館なども組織に参画し、学校と公民館が円滑に連携できるようになることが期待される。	
14	小山市教育委員会 (学校と地域を結ぶ担当者会議)	その他	小山市立各中学校	・生涯学習担当者の配置	学社融合担当者	教頭 教務主任 社会教育 主事 有資格教員	地域担当 ・公民館、中学校、高等学校、生涯学習センター、市民館、図書館、博物館、生涯学習課、文化振興課、生涯学習センター等	・担当する者や研修会は公民館や学校を会場とする。また、研修には現地学習を加える。 ・担当する者や研修会の実施に考慮しながら実施する。 ○学校と公民館などの社会教育施設が、互いの業務内容を理解することができた。 ○この会議やプログラムなど、2本の学校の公民館の連携事業が立ち上がった。 ◇年間1、2回程度の研修会が必要である。特に、研修会では具体的なテーマを一つ取り上げ、研究協議を重ねていく必要がある。 ○各中学校の組織が、自主的な活動を展開できる環境整備をすることが急務である。 ◇各中学校の健全育成のために、本事業には、児童福祉部局や市内の高等学校の担当者と連携が期待できる。	
15	益子町公民館 (学校支援ボランティア総会)	その他	益子町立各中学校	・生涯学習担当者の配置	主事	生涯学習 担当教員	ボランティア支援センター ・公民館、中学校、高等学校、生涯学習センター、市民館、図書館、博物館、生涯学習課、文化振興課、生涯学習センター等	・学校と地域の連携を推進するには、「生涯学習担当者連絡会議」のような関係者が集まる場を設定することである。 ・公民館は、学校支援ボランティアセンターを単位として少人数で進める。 ・派遣したり、情報の提供をしたりする。 ・会議は、実情のある会談とするために、直接担当するメンバーで構成する。 ○学校支援ボランティアセンターは、学校と地域を結びまわつくりを支えている。 ○学校支援ボランティアなどによる学校と地域が一体となった教育活動が、子どもを引き出し、学校の教育課題達成につながっている。 ○ボランティアの必要性が周知された。 ◇今年度は、教員と学校支援ボランティアセンターの信頼関係の醸成のために、ワークシートの手法を取り入れるなど工夫した事例の発表をとり入れ、より充実した活動にしたい。 ◇各中学校の健全育成のために、本事業には、児童福祉部局や市内の高等学校の担当者と連携が期待できる。	